

ヤスハラケミカル

環境・社会報告書

2017

自然と暮らしを科学でつなぐ。

ヤスハラケミカル株式会社

CONTENTS

- 1 CONTENTS / 会社概要 / 編集方針
- 2 ヤスハラケミカル ～私たちの考え方～
- 3 会社紹介
- 5 TOP MESSAGE
- 7 経営分野
 - 中長期的経営方針 / 財務ハイライト / 部門別状況
- 9 **特集 1**
営業力、組織力強化のための営業本部の取り組み
- 11 **特集 2**
より強い収益構造の構築に向けた生産本部の取り組み
- 13 環境・安全分野
 - 環境・安全に関する基本方針 / 推進体制
 - 【目標達成状況】**
2016年度の具体的目標と実績 /
コラム「冷水機(チラー)の省エネ(総領工場)」
- 15 **【事業活動における環境配慮への取り組み】**
エネルギー使用量 / CO₂排出量 /
大気汚染物質の排出量 / 排水負荷物質の排出量 /
産業廃棄物処理委託量 / PRTR対象物質の排出・移動量
 - 【安全衛生への取り組み】**
労働災害発件数の推移 / 休業災害度数率の推移 /
安全衛生表彰 / 安全衛生・環境に関する資格の有資格者数
- 17 社会分野
 - 【お客様への取り組み】**
品質管理 / 製品の安全情報提供
 - 【株主・投資家の皆様への取り組み】**
株主総会 / 監査等委員会設置会社への移行 /
IR活動 / 株主還元
 - 【従業員への取り組み】**
仕事と家庭の両立支援 / 健康管理
 - 【地域社会への取り組み】**
スポーツ支援 / 職場体験学習 / 清掃活動

会社概要

商 号 / ヤスハラケミカル株式会社
YASUHARA CHEMICAL CO., LTD.

本 社 / 〒726-8632
広島県府中市高木町1080番地

創 業 / 1947年(昭和22年)4月

設 立 / 1959年(昭和34年)2月24日

決 算 月 / 3月

資 本 金 / 17億8,956万円

主 な 製 品 / ■テルペン樹脂事業
(テルペン系樹脂)

■化成事業
(合成香料原料、テルペン溶剤、ワックス)

■ホットメルト接着剤事業
(ホットメルト接着剤)

■ラミネートフィルム事業
(光沢ラミネートフィルム)

従 業 員 数 / 257名(2017年3月31日現在)

証 券 コー ド / 4957

「環境・社会報告書2017」の発行について

ヤスハラケミカルは、企業活動全般を通じて、持続可能で豊かな暮らしの実現を目指しています。当社の理念に基づく取り組みをご報告し、より多くの方々にヤスハラケミカルの事業活動を知っていただくことを目的に2008年より、環境報告書を発行してきました。2016年からはタイトルを「環境・社会報告書」と改め、地域社会での活動などの社会性報告に加え、経営ビジョンや財務情報の充実を図りました。

当社は、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行っています。また、お客様、お取引先様、株主・投資家の皆様、従業員、地域社会を大切なパートナーと考え、様々な社会活動を続けています。

今後も、パートナーの皆様からのご意見を伺いながら、さらに情報の拡充を図り、よりわかりやすい報告書へと進化させてまいります。

編集方針

- 報告対象範囲
ヤスハラケミカル株式会社管理部門及び生産拠点
- 報告対象期間
2016年4月～2017年3月(一部期間外のトピックスを含みます)
- 次回発行予定 ※2018年6月発行予定です。
- 発行担当部署
ヤスハラケミカル株式会社 社長室
TEL (0847) 45-3530
FAX (0847) 45-8639

本報告書に関するご意見・ご質問は上記までお願いいたします。

ヤスハラケミカル～私たちの考え方～

基本理念

自然の恵みと科学技術を融合させる独創企業として、
産業と生活の向上につながる活動領域をひろげます。

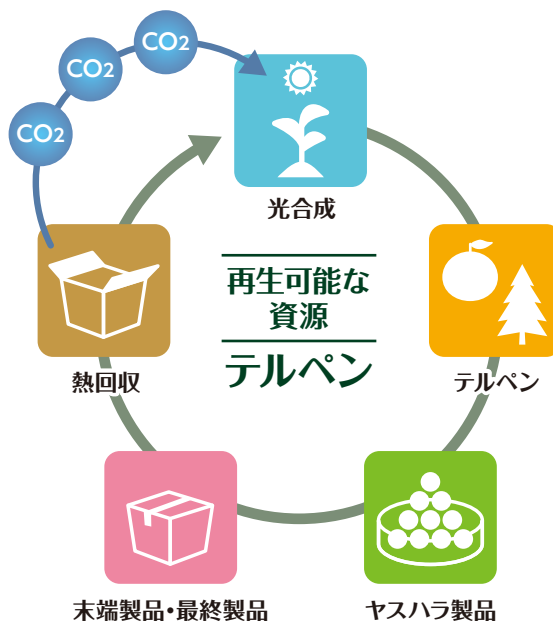
テルペン化学で培った創造と挑戦の精神をもって、自然界の無限の可能性を引き出し、
産業への高品質・高付加価値品の安定供給を通して、社会の発展、便利な暮らし、心豊
かな暮らしに貢献します。

ヤスハラケミカルの紹介

ヤスハラケミカルは環境にやさしい天然由来の「テルペン」を主原料とする化学メーカーで、粘・接着剤、ゴム・プラスチックの改質剤、香料、塗料の添加剤などの工業原料を製造しています。

ヤスハラケミカルの目指すところ

私たちは、従来利用されていなかったものに原料としての有効性を見出し、「社会に還元する」精神のもと高付加価値な製品を提供してきました。今後も、事業活動を通じて、社会の発展、持続可能な暮らしの実現を目指してまいります。



ヤスハラケミカル テルペンから生まれる製品

オレンジジュース製造の副産物であるオレンジオイルと、松脂や松のチップなどから得られるテレピン油を原料として、各種テルペン成分を分離精製しています。それらを付加価値の高い製品へと加工し、国内はもとより広く世界へ送り出しています。高い技術力から生まれる製品は、海外でも高い評価を得ています。

「テルペン」 とは？

植物の体内で作られる物質で、オレンジなどの柑橘類の皮から採取される「オレンジオイル」や松の木から採取される「テレピン油」に多く含まれています。テルペンは、将来の枯渇が心配される石油資源とは異なり、植物が太陽の恵みをもとに繰り返し作り出すことができる再生可能な貴重な資源です。



自社で生産したテルペン樹脂からホットメルト接着剤事業を、ホットメルト接着剤事業からラミネートフィルム事業を展開しています。原料であるテルペン樹脂の特徴を活かした製品開発が当社の強みであり、環境にやさしく、高品質な製品をご提供いたします。

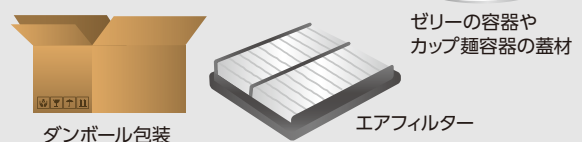
テルペン樹脂

天然素材であるテルペンを主原料としており、粘・接着剤用の粘着付与剤、ゴム・プラスチック等の改質剤として、幅広い用途に利用されています。



ホットメルト接着剤

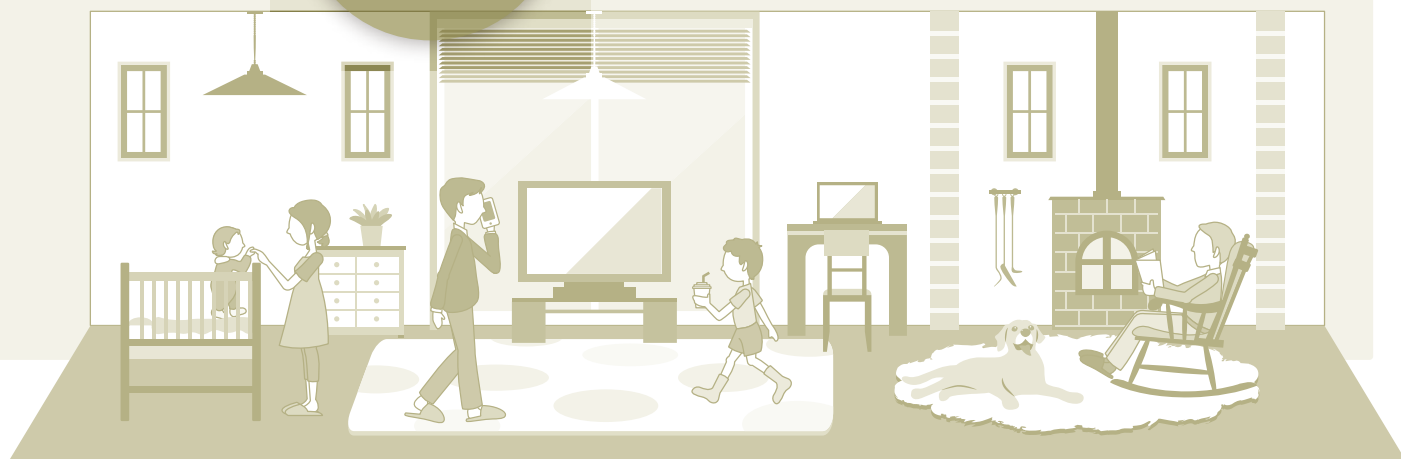
テルペン樹脂を利用し、ダンボール包装用接着剤、日用雑貨用接着剤、フィルターなどのアッセンブリー用接着剤、ゼリー容器などの蓋材向け押し出し加工用樹脂を製品化しています。





国内・海外の
お客様へ

当社の作り出す製品は、
世界各地の人々の暮らしに
役立っています。



ラミネートフィルム

製本の光沢やショッピングバッグなどの艶出し用フィルムとして使用されます。OPPやPETフィルムにホットメルト接着剤などの接着樹脂を押し出し塗工しており、熱圧着することで貼り合わせることができます。



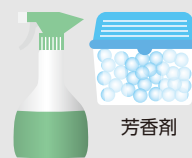
ショッピングバッグ



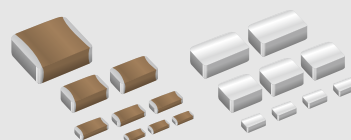
出版物

化成品

オレンジオイル、テレピン油を精製・異性化して得られるテルペン誘導体を香料原料、溶剤、洗浄剤等に展開しています。



芳香剤



積層セラミックコンデンサ (MLCC)



洗浄剤

「今日よりも明日はもっと明るい」と 誰もがそう思える会社にしていきたいと考えています。

従来型の見方にとらわれると
予想を外すリスクがあります。
大局を俯瞰して本質を読み取ることが大切です。

昨年、アメリカの選挙でトランプ氏が大統領に選ばれました。世界は、その結果に驚きましたが、これは従来型の判断をしている人たちが、スピードの速いグローバル化による影響を読み切れていなかったため、予想を誤ってしまったと私は思っています。

かつて中間層が豊かだった時代には「余裕」があったため、多くの人々がグローバル化を許容していました。しかし急激にグローバル化が進み、経済的に「余裕」を失った人も増えていきました。「余裕」がなくなると自分の生活を守るため、グローバル化に対して敵視する人も増えてきます。従来型の見方だけにとらわれていると、そうした水面下の変化を見逃してしまうことにもなります。イギリスのEU離脱も、同じように「余裕」のなくなった人たちが増えたことを読み切れなかった結果だと思えます。

世界経済のグローバル化そのものは止まることはありませんが、アメリカはこれまでの多国間での交渉から、国対国という2国間の交渉へとギアチェンジしようとしています。そうした変化による影響が、これからどこにどのように出てくるか、冷静に注視する必要があります。

それに対応するため、私は従来型の見方にとらわれることなく、大局的な視点から俯瞰することを大切にしています。

新技術の登場で社会や市場が
大きく変わることがあります。
その流れをうまくつかみ新需要に結びつけていきます。

これから先の変化に備え、ヤスハラケミカルでは、これまで利益を出してきたものを大切にしつつ、新たな利益を生むものを創り出すことを常に心がけています。

例えば自動車産業では今、AI技術を応用した自動運転とい

う大きな変化が始まっています。こうした大きな変化の時期は、チャンスと捉えています。

かつて腕時計にデジタル技術が応用され始めたとき、ある電卓メーカーは自社のデジタル技術で時計業界に新規参入し、大きな利益を得ました。一方でスイスでは高級時計に特化することで従来型の安価な時計と差別化し、今も高付加価値な時計を製造しています。

同じように自動車産業でも、自動運転という変化をうまくつかんで伸びる企業が必ず出てくるはずで、そうした企業の新製品に、ヤスハラケミカルの技術や製品をどうしたら役立てることができるかを、いつも考え準備しています。

変化に柔軟に対応していくためには、変化の本質を見極める視点を養うことと、変化に対して迅速かつ柔軟に対応できる体制を確立しておくことが必要です。ここ数年「人のチカラ」を伸ばす取り組みに重点を置いているのも、変化への対応力をつけるためです。

変化に対応するのも本質を見極めるのも、
「人のチカラ」です。
一人ひとりの意識を高める人材育成を
継続しています。

これからグローバルな世界で競争していくには、企業も人も、自分の立ち位置や強さ弱さを理解することが重要です。立ち位置や強さを知るには、まず「知識」を広げることが第一です。

一人ひとりの「知識」を広げるために、社員には日頃から情報量を増やすことを強く要求しています。そして興味のあることや疑問に対して、自分で調べて「知識」の幅を広げていく習慣も求めています。

それとともに、自分たちの客観的な評価を確認できるよう、教育にも力を入れています。2016年には営業力、組織力強化を目的に、営業部員を対象にした研修を行いました。^(※1)

こうした人材教育の効果はすぐに現れるものではありませんが、2010年から継続して取り組んでいることで、社員は

(※1) 詳細はP.9 特集①「営業力、組織力強化のための営業本部の取り組み」をご参照ください。

「意識する」ことができ始めていると感じています。

自分の足りていないものや弱いところは何かを「意識する」だけでも、その人は一步も二歩も前進していると思います。そして意識して「知識」を増やそうとすることで、「人のチカラ」は必ず伸びていきます。

企業が継続していくには「余裕」を持つことが必要。
よりよい明日を創るために
より強い収益構造を構築します。

冒頭でお話したように、「余裕」がなくなると予期せぬことが表に出てくる場合があります。企業も同様に「余裕」を保持しながら経営することが大切です。

企業を安定して成長させるためには、効率的な生産システムの構築と、利益を生み出す高付加価値製品が不可欠です。需要の変化を捉え、高付加価値な製品をタイムリーに送り出すには、その基盤として高品質なものを効率よく安定的に製造できる体制を整えておかなければいけません。このような考え方から、全社的な生産設備の合理化に取り組み、直近で言えば2016年に福山工場に化成品製造設備を新設しました。しかし決してこれがゴールではなく、収益性改善を目的とした生産設備の合理化は、これからもすべての工場において継続的・計画的に行っていく予定です。^(※2)

従来型の考え方をする人の中には、毎日のニュースを見ながら先行きに不安を覚える人もいるかもしれませんが、私は、やり方次第で必ずいい方向に向かう道はあると思っています。

社員一人ひとりの力を高め、より強い収益構造を創ることで、ヤスハラケミカルは、必ず明るい方向に向かうはずで、そして社員にもすべてのステークホルダーの皆様にも「今日よりも明日の方が明るい」と、そうしてもらえそうな会社にしていきたいと考えています。

ヤスハラケミカル株式会社
代表取締役社長

安原 稔 二 Teiji Yasuhara

(※2) 詳細はP.11 特集②「より強い収益構造の構築に向けた生産本部の取り組み」をご参照ください。



中長期的経営方針

2010年以降、設備と人の両面から、体質改善による基盤強化を推進してまいりました。中長期的経営方針としては、収益性改善、新規開拓、グローバル展開を掲げ、積極的に取り組んでまいります。

「人のチカラ」

中長期的経営方針で掲げた目標を達成するためには、「人のチカラ」が最も重要であることを強く認識しています。そのため、社員の意識改革に繋がる教育投資、自律型人材育成を積極的に推進してまいります。ヤスハラケミカルは、従業員一人ひとりが筋肉質になることを目指しています。筋肉質であるためには、例えば、情報をただ集めるだけではなく、読書などにより知識を増やし、情報を編集する力を身につける必要があります。知識が増えると、視野が広がり、創造性が育まれ、競争に負けない力を発揮できるようになると考えています。長期的視点に立って、「人のチカラ」を伸ばしていきます。

収益性改善

高収益製品の売上増加、工場の合理化推進を図ることにより、利益を創出する収益構造を確立します。



収益性
改善



人のチカラ



グローバル
展開



グローバル展開

新興国市場など成長を取り込める事業を展開している顧客を重点的かつ積極的に探索することで、海外市場の新規開拓と拡大を目指します。



新規開拓



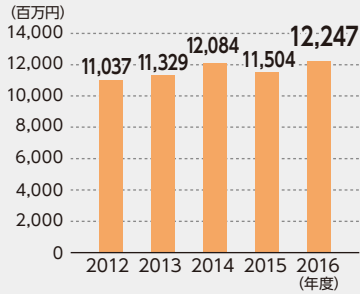
新規開拓

研究開発と事業化の加速を図りながら、付加価値の見込める分野、用途を積極的に開拓します。

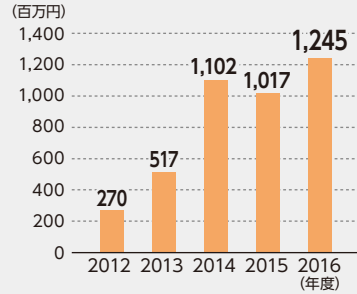


財務ハイライト

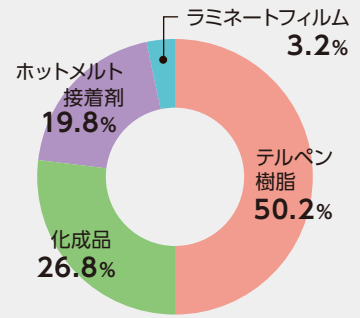
●売上高の推移



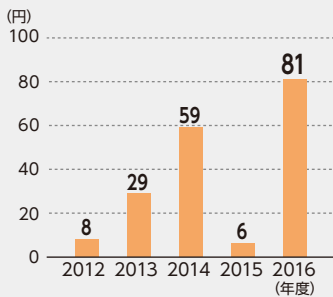
●経常利益の推移



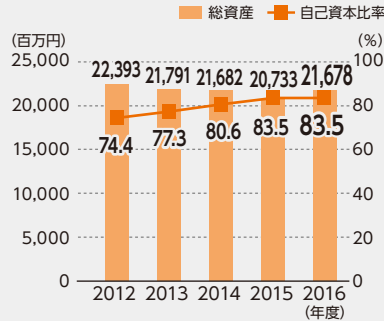
●部門別売上比率 (2016年度)



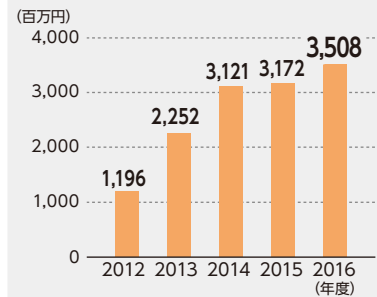
●1株当たり純利益



●総資産/自己資本比率



●現金及び現金同等物の期末残高

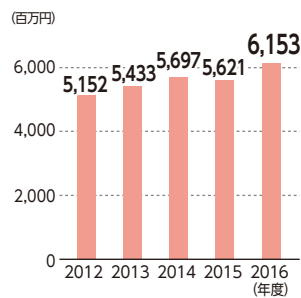


【部門別状況】

テルペン樹脂

近年は、環境対応製品や自動車関連部品、光学、医療などの高付加価値分野のほか、高い再生可能資源利用率や耐候・耐熱性といった特徴が活かされる分野の開拓に注力しています。

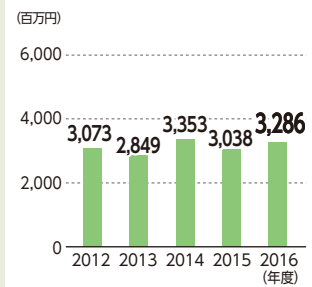
●売上高の推移



化粧品

本事業の収益性向上のため、電子部品向け溶剤や特殊化学品の拡販と、環境対応分野や生理活性分野などテルペン類の機能が活かせる用途開拓に努めるとともに、生産設備の合理化を推進しています。

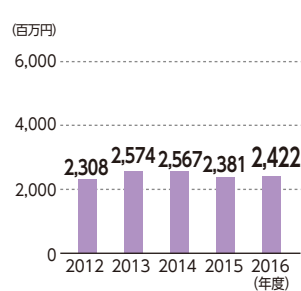
●売上高の推移



ホットメルト接着剤

熱安定性の良い包装用接着剤の展開と、透明性が高く、加工性の優れた食品包装材料用押し出し樹脂の実用化を進めています。

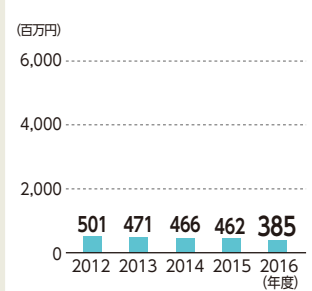
●売上高の推移



ラミネートフィルム

光沢市場が縮小する中、収益性向上のため、不織布に筋状コーティングした通気性のあるラミネート材の用途探索を行っています。

●売上高の推移



一人ひとりの「人のチカラ」を伸ばすことで、 営業本部の組織力強化に取り組んでいます。

ヤスハラケミカルは「人のチカラ」をテーマに、従業員一人ひとりの能力を引き出すための人材育成を計画的に進めています。2016年のテーマは「営業力強化」。2016年9月に、営業部員を対象に2日にわたり営業の基本から実践スキルまで多彩な研修プログラムを行いました。今回はその取り組みについてご報告します。



》》 本部長インタビュー

これまで得た基礎的な知識を知恵や知能に高めることで、さらに強い営業体制を構築します。

取締役 営業本部本部長 中島 一臣



ヤスハラケミカルはB to Bのビジネスを展開していますので、営業担当者は専門的な説明や交渉をする場面も多く、お客様とのコミュニケーション能力が特に重要になります。

ビジネス環境に厳しさが増す中、営業の現場では、これまでのように当社製品の品質や特性を説明するだけでは不十分です。お客様が求めているものは何かに加え、なぜそれを求めているのかという、背景にある情報を聞き出すことが重要です。またお客様の抱えている課題解決に当社製品のこのような特性が役立つということなど、より深い内容をご提案できるようにならないといけません。

2016年9月に実施した営業力強化研修は、交渉力・折衝力を強化することを目的としました。これまでの研修では基礎的な知識を与えてきましたが、今回の研修ではその基礎的な知識を「知恵」や「知能」に高め、より実践の場で活かしていけるようにすることに重点を置きました。

その結果、事前準備の大切さを理解し、相手の市場環境等を調べた上で、交渉に臨むなどの行動変化も徐々に始めています。また、社内他部署とのコミュニケーションを緊密にし、当社製品の知識を豊かにしてお客様との交渉に臨むなどのトライも始まっています。

今後は交渉力・折衝力をさらに向上させるとともに、営業情報の共有化や部門間の連携を図り、営業体制をさらに強化していきたいと考えています。

最近3年間の主な人材教育

2014 コミュニケーションセミナー(若手)／
戦略的問題解決研修(管理職)

2015 中堅社員研修(中堅社員)／
交渉力強化研修(役付社員)

2016 営業力強化研修(営業部員)

主な研修プログラム

- ◎プレゼンテーション(ボイストレーニングやボディコントロールなど)
- ◎顧客訪問マナー(名刺交換・自己紹介・会社紹介など)
- ◎インタビュー技法(インタビューの仕方から掘り下げ質問法など)
- ◎営業実践トレーニング(営業ロールプレイングなど)



日頃気がつかなかったことも、 研修で気づくことができました。

実践的な研修の中で、他の人の営業トークを聞くなど、様々な発見があり刺激になりました。また自分の話し方にクセがあることや、会社の歴史で意外に知らないことがあることにも気づかされました。

これからは、自社の情報だけでなく他社製品の情報も含め、交渉に必要な知識をもっと豊富にしたいと考えています。また早め早めのアポイントメントを心がけるなど、もっと時間の使い方もうまくなっていきたいと思っています。



【営業本部営業一部】 阿部 紗希



【営業本部営業一部】 塩野谷 衣梨

相手の気持ちにより添いつつ 笑顔で話すよう心がけています。

研修を受ける前は、営業の場面で会話がワンパターンになりがちなこともあり、もう少し会話のスキルを向上させたいと考えていました。

研修では、第一印象で場の雰囲気をよくすることの大切さを再認識されたのが、とてもよかったです。今はお客様にあわせて、声のトーンやボディランゲージ、笑顔などで印象づけられるようにしています。相手の立場に立って考えることも大切だとわかりました。だから下準備をしっかりと、もっと相手の気持ちにより添いつつ話せるようになりたいと思います。

話すことより聞くことが、より重要だと気づきました。

研修を受ける前は、うまく話すのが営業だと思っていましたが、研修を受けて、相手の話を聞くということがより重要だと気づかされたのが一番印象的でした。今は、どういう質問をすれば聞きたい答えが得られるかを、考えながら話せるようになりました。

また、自社の紹介をするロールプレイングではうまく説明できず戸惑いましたが、研修後会社の歴史をしっかりと調べなおしたことで、日々の営業でも会話が豊かになりました。これからも、もっと幅広い知識を身につけたいと考えています。



【営業本部営業二部】 日南田 裕介



【営業本部営業二部】 金只 晃太郎

実践的な研修プログラムで得た経験を、 毎日の営業で心がけています。

私が所属する営業部門に、専門知識が豊富で説明もうまく、初対面でも良い雰囲気をつくれる先輩方がいて、そんな営業スタイルに憧れていました。研修ではプレゼンテーションの仕方やジェスチャーの使い方、会話を弾ませる言葉の活用法などの実践的なプログラムが多く、とても参考になりました。電話での会話や営業活動の中でも取り入れ、会話がスムーズになったと思います。

今は知識を広げることと、わからないことはうやむやにせず、すぐに調べたり積極的に確認したりすることを心がけています。

収益構造をより強化するために、 生産設備の効率化への取り組みは続きます。

ヤスハラケミカルは「収益性改善」を中長期的経営方針の一つに掲げ、利益を創出する収益構造の確立に向かって前進しています。今回は、生産本部が進めている収益性改善へ向けた取り組みの一部をご紹介します。

》》 本部長インタビュー

よりスリムな生産体制で、より効率よく！ 収益性改善へのチャレンジを続けます。

取締役 生産本部本部長兼技術一部部長 栗本 倫行



生産本部では、ここ数年にわたり、各工場の生産設備の合理化を進めてきました。例えば鶴飼工場ではホットメルト接着剤製造設備の老朽化が課題となっていました。総領工場の製造設備を活用することで解決しました。新居浜工場では、設備腐食の課題を解決する中で、生産性の効率化を進めることができました。また、新設した福山工場の化成品製造設備は2016年10月に本格稼働を実現でき、一つの区切りを迎えましたが、これで終わりではありません。収益構造を強化するために、よりスリムな生産体制でより効率よくという生産本部の取り組みは、これからも積極的に進めていきます。

その中で製造部門や技術部門には、大局的視点に立ち、自問自答することを求めています。大局的視点に立つと、自らの設計のめれや対策の甘さが見えてくるため、結果として完成度が上がっていきます。目標数値も自分が考えているよりも、より厳しく設定すると、変動要因による影響も少なくて済みます。大局的視点に立ち、自分の提案や取り組みを批判的に見ることで、成果を上げていくことを経験して欲しいと考えています。

鶴飼工場・総領工場の取り組み

老朽化した製造設備の代わりに 既存設備を活用する取り組みました。

鶴飼工場のホットメルト接着剤製造設備は昭和46年から稼働しているもので、老朽化が課題となっていました。そこで総領工場にある製造設備を活用できないかと検討を行い、プロジェクトをスタートさせました。

生産を移管するには、鶴飼工場で生産している製品と同じ特性を、総領工場の製造設備でも得られるようにすることが大前提にあります。また、同時期に、一部原料が廃番となり、生産移管だけでなく、原料の代替を検討する必要も出てきました。そのため製品原料の配合や製造条件の調整を繰り返しました。途中、何度か思わぬトラブルも発生しましたが、その際は製造部門と技術部門が問題点に対して異なる目線で意見交換を行い、解決へのアプローチを見出しました。このように課題を一つずつ解決していくことで、2016年12月からは本格的な生産を実現できました。今回のプロジェクトの成功は、製造部門と技術部門の連携協力によるものです。これからも互いの連携を密接にすることで、新しい製品開発に活かしていきたいと考えています。



【総領工場 工場長代理】西川 広治



【技術二部】北村 昌三

新居浜工場の取り組み



オレンジオイル精留とテレピン油精留時の課題を同時に解決しました。

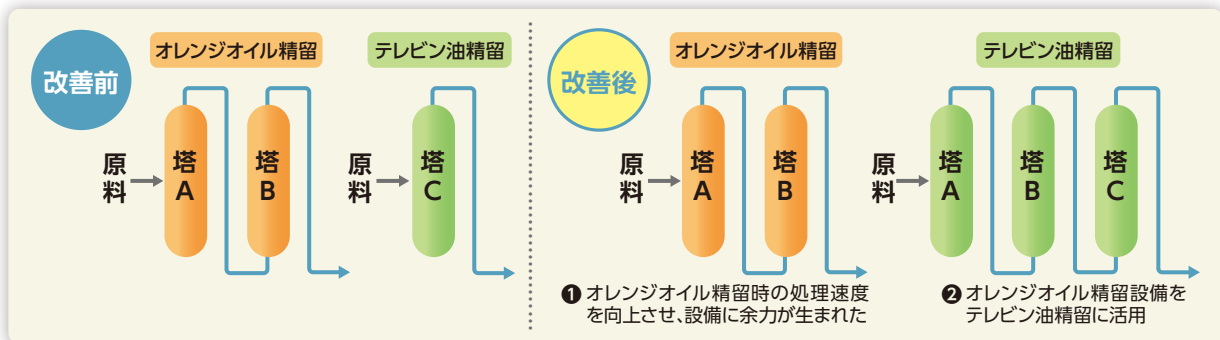
新居浜工場では、オレンジオイル精留時に一部成分の分解により発生する水分による設備腐食が長年の課題となっていました。精留時に発生する水分は、他工場の改善事例を参考にし、精留時の処理速度を上げるなどの対策を講じ、分解による水分生成量を低減でき、設備腐食の抑制が図れました。

新居浜工場にはオレンジオイル精留設備のほかに、テレピン油精留設備があります。テレピン油精留においては、高純度な α ・ β -ピネンをより効率的に回収する方式の確立が検討課題に挙がっていました。そこで、余力の生まれたオレンジオイル精留設備をテレピン油精留に活用すれば、高純度な α ・ β -ピネンの回収効率を向上できるのではないかと発想を広げ、テレピン油精留の検討課題にも着手しました。

高純度な α ・ β -ピネンの回収効率を高めるには真空度を高めればよいことはパソコンを使用したシミュレーション結果からわかっていました。しかし実際にテストし始めると、想定外のことも多く試行錯誤を繰り返しましたが、最終的には当初の狙い通り、効率的に高純度な α ・ β -ピネンが回収できるようになりました。また効率化が進んだことで、蒸気や電力などのエネルギー低減にもつながり、環境への負荷も低減することができました。



【技術一部技術二課】井藤 恭仁子



福山工場の取り組み



作業基準の策定と倉庫貯蔵能力の改善に取り組みました。

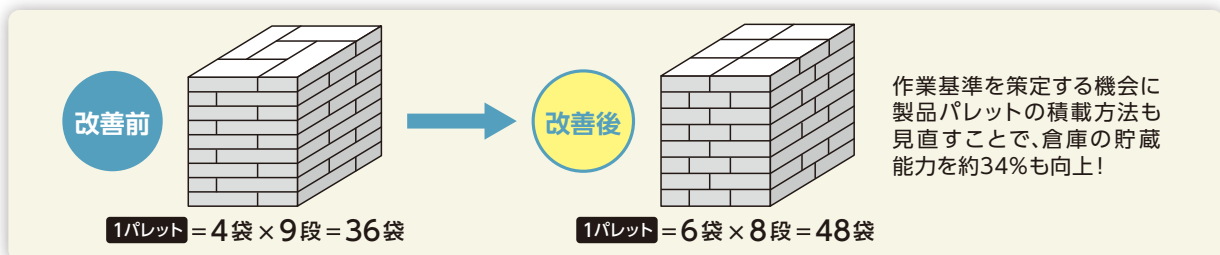
2016年の化成品製造設備の本格稼働に備え、前年から作業基準作りに取り組みました。福山工場の新設備は従来の設備とはスケールや条件も異なるため、試運転が開始されてからは、現場で技術部門や作業スタッフと何度も意見を交わしながら完成させました。

また作業基準の策定と並行して、工場倉庫内での貯蔵量アップというテーマにも取り組みました。従来の製品の積み方を根本から見直し、1パレットに6袋×8段で積載する方法を取り入れることで、従来より約34%貯蔵能力を高めました。

これからも、現場の作業スタッフがより安全により効率よく生産できる環境を考えていきたいと思っています。



【福山工場業務防災課】後藤 悠氏



ヤスハラケミカルは、人や環境にやさしい天然素材の原材料を活かした製品を開発・提供することはもとより、資源調達から製造、流通、販売まであらゆる企業活動において環境への配慮を行うことで、持続可能で豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

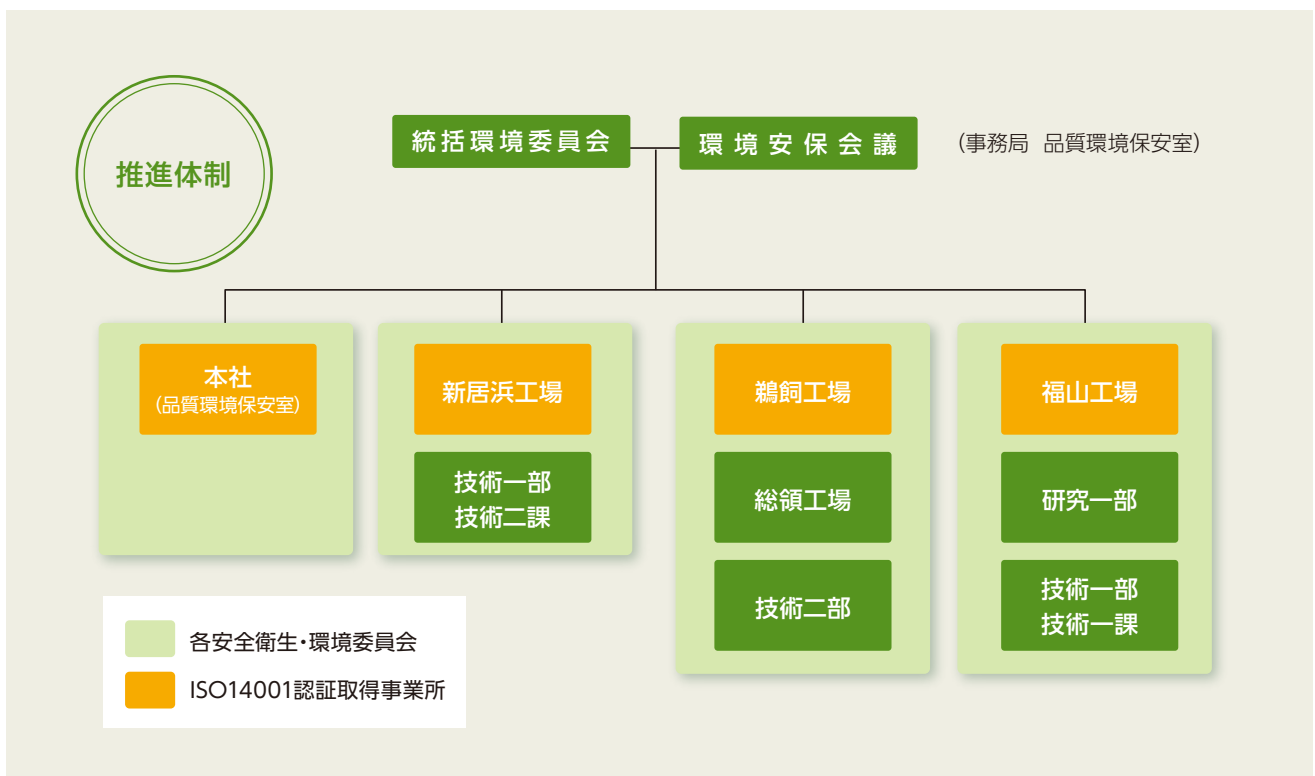
《 環境・安全に関する基本方針 》

- 1 天然物の有効活用による安全で環境負荷低減型製品の開発により、各産業分野における地球環境保護(省資源、リサイクル、健康有害物の排除など)の推進に貢献する製品を提供することで社会に貢献します。
- 2 製品の開発から廃棄に至るまでのライフサイクル全般にわたり、環境負荷の低減を図り、環境保護に努めます。
- 3 無事故・無災害の操業を継続し、従業員と地域社会の安全を確保します。
- 4 原料、製品の安全性を確認し、従業員、物流業者、顧客など関係する人々への健康障害を防止します。

全従業員は、この方針の重要性を認識し、法令、規格及び社内ルールを順守するとともに、常に改善に努力すること。

2006年5月2日

ヤスハラケミカル株式会社 代表取締役社長 安原 禎二



目標達成状況

2016年度の具体的目標と実績

ヤスハラケミカルでは、各工場での環境目標を数値設定、励行することで、事業活動全体における環境負荷の削減を推進しています。

環境活動の目標と実績				
活動テーマ	2016年度目標	2016年度実績	評価	2017年度目標
環境マネジメントシステム(EMS)の推進	EMS認証取得3工場の認証維持	3工場の認証更新	○	3工場の認証維持
省エネルギーの推進	エネルギー原単位前年度比1%削減	エネルギー原単位前年度比5%削減	○	エネルギー原単位前年度比1%削減
温室効果ガスの排出削減	CO2原単位前年度比1%削減	CO2原単位前年度比12%削減	○	CO2原単位前年度比1%削減
産業廃棄物の削減	産業廃棄物排出原単位削減	産業廃棄物排出原単位増加	×	産業廃棄物排出原単位削減
	廃棄物排出量削減	廃棄物排出量増加	×	廃棄物排出量削減
化学物質の適正管理	PRTR排出量削減	PRTR排出量前年度比5%削減	○	PRTR排出量削減
	化学物質リスクアセスメントの継続実施	化学物質リスクアセスメントの実施	○	化学物質リスクアセスメントの継続実施
災害・事故	休業災害・事故ゼロ	休業2件	×	休業災害・事故ゼロ
環境・社会報告書発行	年1回発行	6月発行	○	年1回発行

◎目標を大幅に超えて達成 ○目標を達成 ×目標を達成できなかった



COLUMN

冷水機(チラー)の省エネ(総領工場)

総領工場では、エネルギーの省力化を目的として、2016年度に水冷式冷水機3台をトップランナー基準型の空冷式冷水機4台に更新しました。水冷式に比べメンテナンスが軽減されることと、空冷式でも十分冷却能力があることから空冷式を選択しました。消費電力を年間5.4%削減できる見込みで、順調に稼働しています。



本取り組みは、経済産業省補助金制度「平成27年度補正予算:中小企業等の省エネ・生産性革命投資促進事業費補助金」に応募し採択され、設備購入費用の一部を補助いただきました。今後とも、社内省エネ案件を発掘し、様々な補助金制度を調査し活用して、省エネルギーの推進に努めていきます。

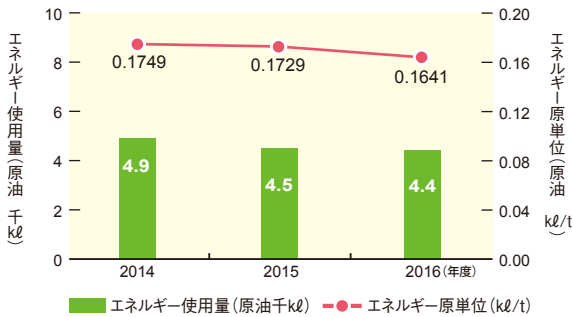
品質環境保安室 環境保安グループ 中橋 学



事業活動における環境配慮への取り組み

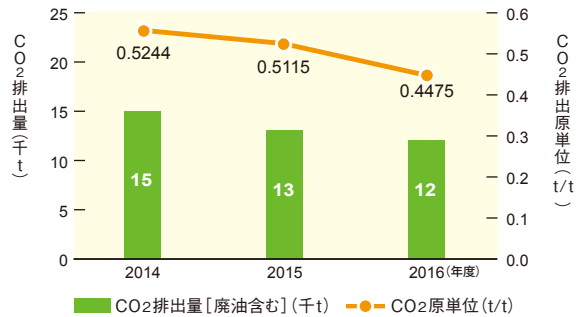
エネルギー使用量

2016年度は生産設備の合理化や原料蒸留残渣のボイラー燃料活用等で使用量が減少し、エネルギー原単位は前年度比5%減少しました。引き続き省エネルギー活動を推進します。



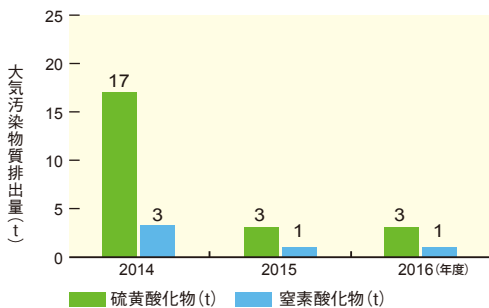
CO₂排出量

2016年度は原料蒸留残渣の活用等による燃料使用量削減により、CO₂排出原単位は前年度比12%減少しました。引き続きCO₂排出削減に努めます。



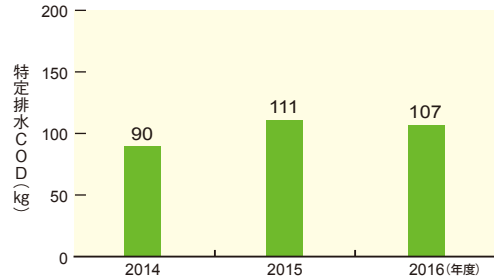
大気汚染物質の排出量

2016年度は2015年度に実施した低硫黄燃料への転換を継続し、硫酸酸化物排出量は横ばいとなっています。引き続き大気汚染物質の排出削減に努めます。



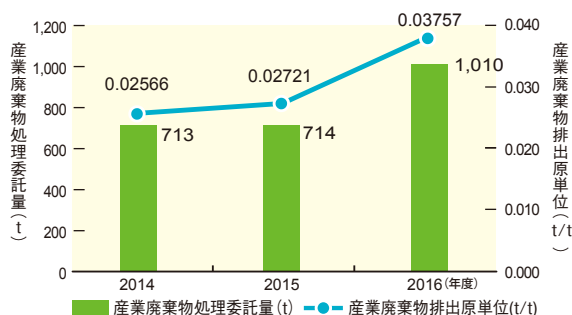
排水負荷物質の排出量

2016年度は生産設備の合理化により、COD負荷量は前年度比4%減少しました。引き続き排水負荷物質の排出削減に努めます。



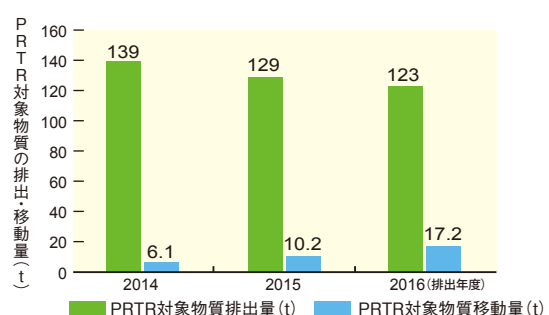
産業廃棄物処理委託量

2016年度は一部製品の生産量増加の影響により産業廃棄物が増加しました。その結果、産業廃棄物排出原単位は前年度比38%の増加となりましたが、引き続き産業廃棄物削減、有価物への転換等に努めます。



PRTR対象物質の排出・移動量

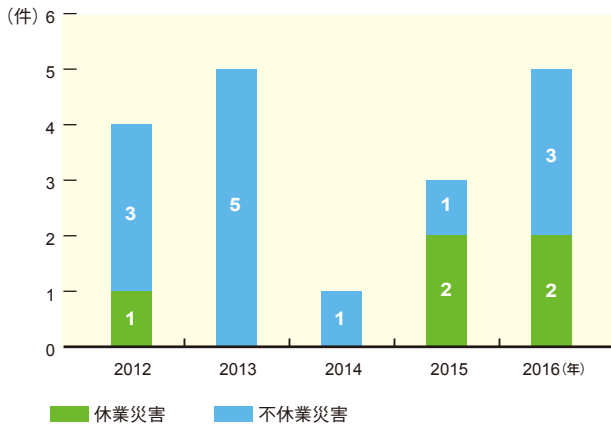
2016年度は生産設備の合理化により、PRTR対象物質排出量は前年度比5%減少しました。引き続きPRTR対象物質の排出・移動量の削減に努めます。



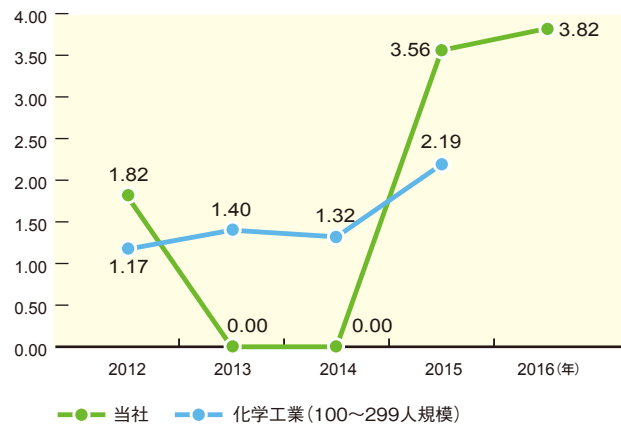
安全衛生への取り組み

ヤハラケミカルは、安全を最優先に事業活動を行い、安全、健康そして快適な職場づくりに取り組んでいます。

労働災害発生件数の推移



休業災害度数率の推移



※度数率は、100万延べ実労働時間当たりの労働災害による死傷者数で、災害発生頻度を表す。
 ※出典：厚生労働省「平成27年労働災害動向調査（一般産業統計表2）」（平成28年10月13日公表）

安全衛生表彰

永年にわたり安全衛生活動と災害防止活動に努めたことが評価され、次のとおり新居浜工場が関係団体から表彰されました。

表彰日	表彰工場	表彰内容
2016年5月25日	新居浜工場	日本ボイラー協会 優良ボイラー技士

また当社では、職場ごとに労働災害無災害日数の目標を第1種から第10種まで定め、その目標日数に到達した場合、安全表彰を行っています。2016年度中に表彰を受けた職場は表のとおりです。

※第1種達成とは、定められた目標日数の間、無災害の場合をいい、目標日数を超えた場合、その倍数ごとに第2種、第3種と継続する。

達成日	表彰職場	表彰種別
2016年5月13日	新居浜工場製造課	第1種
2016年5月29日	福山工場製造課	第4種
2016年6月4日	福山工場検査課・業務防災課	第3種
2016年9月8日	総領工場	第2種
2016年9月24日	新居浜工場検査課・業務課 技術一部技術二課	第3種
2016年10月13日	本社事務所	第9種
2016年12月6日	川内工場	第3種
2017年1月22日	鶴飼工場製造課・工務担当	第1種

安全衛生・環境に関する資格の有資格者数

当社では、安全衛生・環境に関わる必要な資格の積極的な取得に努めています。

法的に定められた選任者は充足していますが、新入社員をはじめとした若手従業員を中心に資格取得の推進を図り、スキルアップにつなげています。

資格名称	有資格者(名)
	2016年度
公害防止管理者	12
エネルギー管理士	6
衛生管理者	12
特別管理産業廃棄物管理責任者	7
ボイラー技士・整備士	49
危険物取扱者	173
消防設備士	16
高圧ガス製造保安責任者	56

お客様への取り組み

品質管理

品質方針

お客様の満足と信頼をいただくために、常にニーズに合った品質の製品を経済的、安定的に提供します。

生産本部 部長 栗本 倫行

これまで工場ごとに品質マネジメントシステムISO 9001を取得していましたが、2017年2月に新居浜工場、福山工場、鶴飼工場、総領工場を統合した範囲で審査を受け、2017年4月より適用となりました。

品質マネジメントシステムにおいて工場を統合したメリットを活かし、さらなる全社的な品質保証活動を実践していきます。

ISO 9001
取得状況

適用工場	新居浜工場、福山工場、 鶴飼工場、総領工場
登録番号	JCQA-0472
判定日	2017年4月3日

製品の安全情報提供

製品ラベルへ印字しなければならない安全情報量は近年増える傾向にあります。この傾向に対応するため、当社では、テルペン樹脂・化成品の製品ラベルについて、一部の製品を除き、2016年10月製造分よりレイアウトを変更し、サイズも横に約1割広くしました。

また、各国の法規制に基づいた輸出用の製品ラベルにも適用できるようにしています。



株主・投資家の皆様への取り組み

株主総会

2016年6月16日、第58期定時株主総会を開催し、約50名の株主の皆様に参加いただきました。例年どおり、株主総会終了後には、近況説明会を開催し、当社の中長期的経営方針や経営状況についてご報告しました。今後も株主の皆様との対話の場の実現に努めます。

監査等委員会設置会社への移行

当社は、コーポレートガバナンス体制の一層の充実を図るため、2016年6月16日をもって監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行しました。当社の監査等委員会は、2名の社外取締役と1名の取締役から構成され、経営の監査・監督を行います。これにより、外部からの視点を確保し、経営の透明性の向上、パートナーの皆様への期待により応えうる体制の構築を目指します。

IR活動

株主・投資家の皆様への積極的なIR情報開示に努め、「決算短信」「有価証券報告書」「株主総会招集通知」「年次報告書」などをホームページで公開しています。「株主総会招集通知」については、早期WEB開示を実施することで株主の皆様への迅速な情報提供に努めています。今後も情報開示の充実化、迅速化を図っていきます。



株主還元

安定配当の維持継続を基本方針とし、株主の皆様への中長期的な利益還元を図っています。

従業員への取り組み

》》 仕事と家庭の両立支援

従業員が仕事と育児を両立できる職場環境づくりに取り組み、育児休業制度、介護休業制度、育児短時間勤務制度などの支援制度の積極的な利用を推進しています。

2016年度の育児休業の取得率は女性が100%と高く、男性の取得も奨励しています。



制度	概要	2014年度	2015年度	2016年度
育児休業制度	子が1歳に達するまで	4名	5名	3名
育児短時間勤務制度	子が小学校3年生終了まで勤務時間を9:00～16:00(または16:30)に短縮可能	6名	10名	11名

》》 健康管理

毎年10月、「全国労働衛生週間」の行事として、産業医による衛生講話を行い、従業員の健康管理を積極的に推進しています。2016年は、高木工場、鶴飼工場に勤務する従業員を対象として、「早めのインフルエンザ対策」をテーマに、インフルエンザ予防に関する講話を行い、約50名の従業員が聴講しました。また、2014年より、全従業員を対象にストレスチェックを実施しています。従業員にはストレスチェックの結果から自身のストレスに気づき、セルフケアに活用してもらおうと同時に、職場環境の改善を目指しています。さらに、外部機関による電話相談や産業保健スタッフによる健康面談を受けられる環境を整備しています。



地域社会への取り組み

》》 スポーツ支援

当社は、女子バレーボール市民クラブチーム「岡山シーガルズ」の応援をしています。2016年1月の応援バスツアーへの参加、2016年9月の府中バレーボール教室共催などを通じて、地域におけるスポーツ振興に取り組んでいます。

》》 職場体験学習

地域の学校の生徒を対象に、職場体験学習の受入れを行っています。2016年は、夏休み期間中に、鶴飼工場に2名、総領工場に3名の中学生が職場体験学習に訪れました。

》》 清掃活動

地域社会への感謝の気持ちを込めて、本社事務所、各工場周辺の清掃を定期的に行っています。





<http://www.yschem.co.jp/>

ヤスハラケミカル株式会社

〒726-8632 広島県府中市高木町1080番地 TEL:0847-45-3530 FAX:0847-45-8639

UD FONT
見やすいユニバーサルフォントを
採用しています。